

高松高校生が 香大附属高松中学校で 人権学習交流会を行います

令和8年6月22日(月)
香川県立高松高等学校
担当：三崎(当日の取材、
内容に関すること)
電話：087-831-7251

(今回の活動)

高松高校生による出張授業と交流会(人道、平和学習に関して)

～「命のビザ」の杉原千畝(すぎはらちうね)さんの生き方を通して～

- 1 日程：令和8年7月7日(火) 13:45～15:35
- 2 場所：香川大学教育学部附属高松中学校
- 3 内容：①本校生から杉原千畝・幸子(ゆきこ)氏の活動の伝達及びワークショップ
中学生7～8人に高校生が1人つき、テーマ(人道、平和に関することを
設定して互いの意見を抽出し班としての意見をまとめる
②ワークショップの発表、高校生との交流会
- 4 参加者：高松高校 人道プログラム実行委員会所属 1、2年生約10名～18名
香川大学教育学部附属高松中学校 中学3年生103名

※ 下記「人道プログラム」を行う中で、生徒が自発的に母校の中学校に出向き、そこで
旧担任の先生たちと自分たちの活動を話すことから実現した企画です。令和5年度にも
同様に、一宮中、三木中、白鳥中で実施しています。

高松高校の「人道プログラム」

本校では、一般財団法人三菱みらい育成財団による「心のエンジンを駆動させるプログラム」等の助成を受け、「杉原千畝・幸子氏から広がる人道の輪～高校生同士の交流が世界へと繋がる」のテーマのもと、イスラエルやリトアニア大使館表敬訪問や愛知県知事、神戸・沼津市長表敬訪問、岐阜の杉原千畝記念館等を実際に訪れて学びを広げる国内研修などを行いました。また令和6年度にポーランド、リトアニアを訪問する海外研修、令和7年度に大阪・関西万博でのプレゼンテーションを行い、「人道」「国際平和」「民族融和」について考えてきました。

第二次世界大戦中、自分の命の危険を顧みず、リトアニアの地でユダヤ難民に対して「命のビザ」を発行した杉原千畝外交官の妻幸子氏は本校の卒業生であり、ビザ発行の勇気ある行動の影には妻幸子氏の献身的な支えがあったと言われています。

このご縁もあり、世界の各地で戦争が行われている今、高校生が平和な国際社会の創出に向けて意見交換し、多くの学びを共有し、またその輪を広げ日本国内から世界へと繋げていきたいと考えて活動を行っています。現在は県内での普及活動に力を入れ、「アンネのバラ」を通じた地元の小・中学生との交流を大切にしています。